

令和5年度 第1回福岡県循環器病対策推進協議会 委員からの主な意見

1 報告事項「(1) 福岡県循環器病対策推進計画に基づく取組 (R4実績、R5計画)」について

- さまざまな取組を県でもされているとのことであるが、SNSなどでの広報はどのくらい見られているのか把握されているのか。周知すること、発信していることを知らしめることも必要で、何らか方法を考えていただくと効果的なのではないか。

(事務局)

昨年度、特定健診の受診率向上のための取組として、ナッジ理論を活用した事業については、620万回発信し、約1.4万回は見られており、興味を持っていただくということに一定の効果はあったと考えている。

2 報告事項「(2) 福岡県脳卒中・心疾患等病総合支援モデル事業報告」について

- 専属でスタッフを配置されているのか。大学病院でも対応できるような体制について、何かアドバイスいただけないか。

(報告者)

脳卒中学会から相談窓口マニュアルも示されていたと思うが、看護師、医療ソーシャルワーカー、診療科の主要な医師でチームを作り、入院患者の方や関連医療施設から相談を受けられる予約枠を示し、対応者が相談を受けたときにその枠に割り振るといった形にしていくのがいいのではないかとと思われる。

- 県全体でも中核の病院に相談窓口を設置するような支援などはされないのか。

(事務局)

がんの方では地域別に拠点をつくっているが、循環器については今のところは国の施策でも、県で1か所設置し、そこを中心に他の病院や地域と連携していくという方針になっている。そのため、県としてはこのセンターを中心に、いろいろな方の御意見も伺いながら在宅の分野と連携して取り組んでいく。

- 相談対応のシステムを構築されているが、どの程度のスタッフでの相談受付が可能なのか。

(報告者)

リハビリテーションは複数、医療ソーシャルワーカーも両分野、看護師は脳卒中療養相談士の研修受講者を中心に、医師はある程度の経験のある者数名程度のチームを組んでいる。

- 今後、ケアマネージャーなどの専門職の方が相談する場所を作っていく予定はあるか。

(報告者)

急性期のセンターには今のところないが、医療介護連携という面ではケアマネージャーは大事なので、そういうものを作っていきたいと考えている。

3 協議事項「第2期福岡県循環器病対策推進計画の策定」について

- 資料6について、高血圧の改善の目標値が130未満となっているが平均値か。次期計画では130未満の人の「割合」とする方がよいのではないかと。

(事務局)

現在の指標では、調査対象者の平均値を実績値としている。御意見は次期計画策定の参考にしたい。

- 資料5の6(3)、治療と仕事の両立支援・就業支援について、事業者の意識啓発としてどのような取組を実施しているのか。

(事務局)

センターで県民対象の公開講座を行っているが、事業者への理解促進という側面が少ないため、次期計画の策定にあたり取組を検討したい。

- 資料6、血圧の現状値などについて、対象者の世代などどのような集団なのか。

(事務局)

5年に1度行っている県民健康づくり調査で無作為抽出した方のデータを示している。

- 次回までに現行の計画で設定した目標について、その値とした経緯をお示しいただきたい。

(事務局)

現行計画の目標値として設定した経緯は、次回までに確認してお示ししたい。

- 次期計画における目標と取組内容は、次回以降の協議で決定されていくのか。

(事務局)

次回の会議で骨子を御説明するとともに、目標の立て方などについて御意見をいただき、3回目の会議では計画の具体的な内容を素案について、御意見をいただく予定。

- 言語聴覚士は、難聴やコミュニケーションなどへの支援ができるので、ぜひリハビリテーションの活用を計画に盛り込んでいただきたい。

(事務局)

次期計画の策定の中で検討したい。